

学年ごとの週時程は、どのような考え方で編成すればよいか？

第3学年を例に説明すると

移行期間中の学校の標準時数について
 【平成22年度】
 【移行措置案】

| 学年 教科等 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|---------------|--------------------|--------------------|-------------------|---------|
| 国語 | 140 (4) | 105 (3) | 105 (3) | 350 |
| 社会 | 105 (3) | 105 (3) | 85 (2.4) | 295 |
| 数学 | 140 (4) | 105 (3) | 140 (4) | 385 |
| 理科 | 105 (3) | 140 (3) | 105 (3) | 350 |
| 音楽 | 45 (1.3) | 35 (1) | 35 (1) | 115 |
| 美術 | 45 (1.3) | 35 (1) | 35 (1) | 115 |
| 保健 体育 | 90 (2.6) | 90 (2.6) | 90 (2.6) | 270 |
| 技術・ 家庭 | 70 (2) | 70 (2) | 35 (1) | 175 |
| 外国語 | 105 (3) | 105 (3) | 105 (3) | 315 |
| 道徳 | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 105 |
| 特別 活動 | 35 (1) | 35 (1) | 35 (1) | 105 |
| 選択 教科 | 0~15 (0~0.4) | 15~50 (0.4~1.4) | 45~105 (1.3~3) | 60~170 |
| 総合的な学習の 時間 | 50~65 (1.4~1.8) | 70~105 (2~3) | 70~130 (2~3.7) | 190~300 |
| 合計 | 980 (28) | 980 (28) | 980 (28) | 2940 |

第3学年の時数に注目。
 週当たり、きちんと整数になっている教科と、小数で表している教科・領域があることが分かる。
 整数で表されている教科等は、そのまま週時程に位置づけられるが、問題は、小数で表されている教科等である。
 基本は、小数の表されている教科等については週当たりの時数を合わせて整数になる組み合わせを考えることが大切になる。

例えば、選択を45時間、総合を130時間設定したとする。

$$\begin{array}{l} \text{社会} \quad 2.4 \\ \text{保体} \quad 2.6 \\ \text{選択} \quad 1.3 \\ \text{総合} \quad 3.7 \end{array} \left. \vphantom{\begin{array}{l} \text{社会} \\ \text{保体} \\ \text{選択} \\ \text{総合} \end{array}} \right\} \begin{array}{l} 2.4 + 2.6 = 5 \\ 1.3 + 3.7 = 5 \end{array}$$

社会、保健体育の組合せ、選択、総合の組合せを考えて、時間割を編成することが大切である。

下記に、その具体事例を挙げてみる。あくまでも参考事例なので、各学校の実情等に合わせて工夫・改善することが大切である。

第3学年の週時程のモデル

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|----|----|-------------|------------|----|
| 1 | 国 | 国 | 国 | 社 | 社 |
| 2 | 数 | 数 | 数 | 数 | 理 |
| 3 | 理 | 理 | 音 | 美 | 保体 |
| 4 | 保体 | 技家 | 英 | 英 | 英 |
| 5 | 道 | 特 | 総 | 総 | 総 |
| 6 | | 選 | 社15 保体20 | 選10 総25 | |